

# 患者の皆様へ

令和3年9月24日

消化器外科

現在、消化器外科では、「肝門部領域胆管癌に対する術後 S-1 補助療法の有用性に関する多施設共同研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では2001年1月から2021年9月に胆管癌（肝門部領域胆管癌）に対する手術を受けた患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

## 1. 研究課題名

「肝門部領域胆管癌に対する術後 S-1 補助療法の有用性に関する多施設共同研究」

## 2. 研究の意義・目的

胆道癌のうち、肝門部領域胆管に発生する肝門部領域胆管癌は、その解剖学的特性により治療切除が困難なことがあります。また、たとえ治療切除が行われたとしても、切除例の約半数にリンパ節転移を認め、再発のリスクが高い疾患です。これらのことから、肝門部領域胆管癌に対する術後補助療法の開発が望まれており、本邦で切除例の多い3施設(千葉大学、横浜市立大学、東京女子医科大学)で共同して、肝門部領域胆管癌に対する術後 S-1 補助療法の有用性を検討します。

## 3. 研究の方法

2001年1月から2021年9月に、当科にて胆管癌（肝門部領域胆管癌）の診断で手術が施行され、電子カルテにて周術期および外来経過のデータが調査可能な患者様が対象です。

対象患者様のデータを調査し、S-1による補助療法の有無別に各患者様の臨床データ(年齢、性別、術式、予後、術前および周術期の採血データや画像データ)、病理組織学的検査所見など、手術成績、病理検査結果、長期予後を比較検討します。

## 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

## 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省、経済産業省が定める「人を対象とする生命科学・医学系研究に

関する倫理指針」(令和3年3月23日告示)に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関：横浜市立大学附属病院 消化器外科

本件のお問合せ先：消化器外科

研究責任者 遠藤 格

医師 本間 祐樹

045(787)2800 内線 2650 (消化器腫瘍外科医局)